

平成 29 年度 国立赤城青少年交流の家 教育事業
幼児期の運動プログラム普及事業

報 告 書

国立赤城青少年交流の家では、「幼児期の運動プログラム普及事業」を10月、1月の2回開催しました。幼児期の運動プログラム「36の基本的な動き」を取り入れた活動を実践することで、幼稚園、保育園、家庭等においてその活動が日常に取り入れられるようにするとともに、幼児期における体験活動の重要性を広く周知することを目指した実践となりました。幼児（3～6歳）と保護者を対象に全2回合計64名の参加で実施しました。

第1回 幼児事業 「親子で大運動会」

1日目は「ピザ作り」からスタートしました。ピザ生地をこねるためには意外と力が必要です。子供達はグループの友達と交代しながら協力してこね、「楽しい」という声と共に「疲れる」という声も聞かれました。全身を使って一生懸命取り組みました。何と言ってもトッピングが楽しかったようで、思い思いのピザを作り上げました。焼き上がるとおいしそうに焦げ目も付き、ドラム缶で作った釜から出す度に歓声が上がりました。グループの友達と一緒に生地作りをしたり、トッピングを楽しんだりすることで参加者同士の気持ちもグッと近づいたように思いました。



ピザをこねる



ピザのトッピング



おいしくいただきました

おいしくピザをいただいた後には、親子で大運動会です。「36の基本的な動き」を取り入れた競技を行い、様々な年齢の幼児がどの子も楽しみながら自然に運動ができるということを意識しながら行いました。バドミントンのラケットにボールを乗せて運ぶリレーでは、それぞれのチームで力一杯応援し、どの子も集中して運びました。ボールを床に置いたかごに投げ入れる玉入れでは、投げるだけでなく、つかむ、渡す、走るなど様々な動きが行えます。夢中で玉入れをしながらもたくさんの運動ができました。しっぽ取りなども行い、最後にもらったがんばり賞のメダルは皆とても誇らしげでした。「もっとやりたい」という声も聞かれるなど保護者の方には子供達の遊びについて考えるきっかけになり、子供達も楽しめたプログラムになりました。



玉入れ



ボール運び



しっぽとり

夜には、前橋読み聞かせグループ連絡協議会のたこさん、九九さんによる絵本の読み聞かせを行いました。読み聞かせでは、静かに聞くということだけではなく、子供達が劇をしたり、体を動かしたりしながら様々な動きも取り入れてもらいました。最後には、ピザ作りや運動会などでの疲れに加え、読み聞かせの効果もあり、すっかり眠くなってしまいうちも見られました。

2日目は、初めに七宝焼きなど創作活動を親子で楽しみました。その後、交流の家で行っている「秋のアウトドアフェスタ」に参加し、凧作りなどの創作活動やディスクゴルフ、グラウンドゴルフなどのスポーツなども行い、家族でたくさんの体験を楽しむ一日になりました。



絵本の読み聞かせ



動きを取り入れた読み聞かせ



七宝焼き作り

第2回 幼児事業 「気分は忍者！～遊んで身に付く36の動き～」

1日目は初めに「うどん打ち」をしました。うどんを粉からこねて作るため、こねるなど力のいる作業でしたが、「粘土あそびみたい」「気持ちいい」という声もあり、みんなで楽しくうどん作りがスタートしました。うどんを伸ばすために麺棒に巻き付けた生地を一生懸命押している姿が印象的でした。その後、腰のあるうどんにするために足で踏んだり、特徴的な面切り包丁で細く切ったりしました。いろいろな太さがあり、それぞれ味のある麺に仕上がりました。初めての体験に子供も大人も熱中して取り組み、おいしくいただくことができました。アイスブレイクの後の最初の活動でしたが、2家族で1つのグループを作り体験をしたので、一緒にうどんを作った同士で仲良くなれました。



アイスブレイク



うどんをこねる



うどんを伸ばす

午後には保護者と子供達で分かれ、子供達はメインとなる次の忍者のプログラムに向けて手裏剣や額当てなどを作製しました。保護者の皆さんは、忍者遊びをメインにうどん打ち、お正月遊びなどで取り入れる「36の基本的な動き」について説明を聞いていただきました。幼児期の運動の重要性や36の基本的な動きがどのようなものでどのようにプログラムに取り入れられているかについて知り、「日頃の子供の遊びの中でも意識して様々な運動をさせたい」という感想もいただきました。

そして、講堂に移動し、いよいよメインプログラムである36の基本的な動きを取り入れた忍者遊びです。14種類のアクティビティを用意し、前半後半で7つずつの忍者修行のアクティビティを行いました。3グループに分かれ、まずはローテーションをしながらすべてのアクティビティを体験します。その後は、さらに遊んでみたいもので時間まで自由に遊びます。忍者の修行に見立てたアクティビティは、子供達が楽しんで運動し、自分からまたやってみたくてくれるように考えました。親子でできるような運動もなるべく取り入れ、帰ってから家で一緒にでき、親子で運動するきっかけとなるようにしました。特に、親子でロープを引っ張り合うアクティビティ（「ひく」「つかむ」などの運動）や縦にした板を親子で手をつないで渡るアクティビティ（「のる」「わたる」「のぼる」などの運動）は人気がありました。子供達からは「疲れた」という声も聞かれ、室内の活動でしたが思い切り運動ができたようでした。



力くらべ



板渡り



紐くぐり

夜のプログラムは、前回好評だった前橋読み聞かせグループ連絡協議会のたこさん、九九さんによる絵本の読み聞かせを行いました。運動プログラムだけではなく、親子キャンプならではの就寝前のゆったりとした時間を過ごすことができました。

2日目は、まず初めに全員で凧作りをしました。最近では、なかなか広い場所を確保できないので、広場で思い切り凧上げをする楽しそうな姿が印象的でした。その後はこま回し、はねつき、けん玉などお正月遊びをしました。それぞれの遊びの由来を交えながら遊び方を説明し、その後はやりたい遊びを自由に行いました。日本の伝統的な風習に触れる機会となるとともに、それぞれの遊びにも36の基本的な動きが入っていることを感じる時間となりました。

お昼にはみんなでついたお餅を食べました。餅つきも初めての体験という方も多く、親子で一緒に杵でつく感覚を楽しんでいました。磯辺餅、きなこ餅、あんこ餅、黒蜜、雑煮など様々な食べ方でつくたての餅を味わいました。終わりの会では、子供達がとても積極的に楽しかったことを感想として発表してくれ、満足してもらえたことを感じました。



絵本の読み聞かせ



凧あげ



餅つき

まとめ

成果としては、大運動会では、子供達がチームで競い合うという設定の中で、夢中で運動を行えました。また、一つの競技の中に、なるべく多くの「36の基本的な動き」を入れ、たくさんの運動の機会となりました。

忍者遊びでは、14種類の活動をたっぷり時間を掛けて行ったため、子供からも「疲れた」という声もあり、たくさんの運動の機会となりました。また、36の基本的な動きについての保護者説明会を行ったことで、「今まで意識していなかった子供の動きに注目してみたい」などの感想もあり、幼児期の運動の重要性を考慮してもらえました。さらに、「うどん作り」「餅つき」「お正月遊び」など普段できない体験活動を取り入れることで、幼児期からの様々な体験を進めるきっかけとなったと感じています。

今後の課題としては、ストーブの柵を設けるなど安全面の配慮を充実させることや踏み台、食事の際の幼児用イスなど幼児用の設備の充実。おむつ替え室、授乳室、昼寝室など幼児用の準備を充実させることの必要を感じました。また、子供の年齢差、保護者の参加状況など参加者の様子に差があるため、全員が楽しめ、活動できる設定を考えていくことが重要であると考えました。